

知っていますか？トイレの水は1人あたり2リットルのペットボトルで何本？

◎ 視察1

「ロジーセンター」

今回の施設は、平成9年に開催された地球温暖化防止会議で「二酸化炭素削減目標「京都議定書」が採択されたことを記念して造られた、まさに京都議定書のシンボルともいえる施設であり、現在開館9年目を迎えて、さまざまな環境活動や環境情報の拠点として、日本のみならず世界的にも重要な役割を担っている施設なのです。

まずは、「へー! そんなにーー」と「気づく」ことから始まり、どのように対処するかを図書館で調べたり、実験の中から「学び」、対処の方法が見つかったら即「活動」に移行し、その輪を徐々に広げていくこと、これこそが一人一人が出来ることから始める温暖化防止策なのだと感じました。

わが町の処分場の件に関しても、満杯になつたら、また新しく造ればいいでは済まない問題です。町全体が町民一人一人が循環型社会を理解し、ごみゼロに取り組み、資源化リサイクルに取り組

◎ 視察2

△理想のまま再資源化を実践している「リサイクルパーク」

鶴田町議会議員

視察研修報告【教育民生常任委員会】

～ごみ処分場限界に関する対処法とごみゼロ運動の研究～

視察先 京都府京都市、三重県鳥羽市

期 間 平成21年9月1日(火)～3日(木)

卷一百一十一 三月上丁 丙子 三吉 丙午



高コロジーカンタ屋上に設置された太陽光発電パネル

A close-up view of a digital scale's control panel. The screen displays the text "お手入れごとに2kg" (2kg per cleaning) above a digital readout of "2.5". Below the readout are several small icons representing different functions or units. A large black circular button with the number "1" is visible on the left side of the panel.

△太陽光の先端量を示す。七二一
きるようになつており、特に子
どもたちにわかりやすいように
工夫されていて、ごみがエネル
ギーとして使えることや普段何
気なく使っている水や電気が温
暖化につながることが良くわか
る仕組みでした。

（二）「エコセン」の基本姿勢は
「気づいて・学んで・活動する」
ことになり、私たちも「なるほ
ど・へー・そんなにー」と気づか
されました。

に種を植え、各プランターに名前を記録してきました。わが町の役場西側の外壁にも活用でき、実験してみるべきで、大いに参考になることだと感じました。

一般廃棄物処理料金の値上げ等の施策により、それなりの効果がありましたが不十分と考え、審議調査の結果を踏まえた「生ごみの発生・排出の抑制とリサイクル推進」を始めました。

施設の使用期限の問題や、屎尿の洋投棄止に伴う広域での施設整備等の問題により、市が実態調査を行つて減量化目標を策定し、2004年水準から2010年に廃棄物15%削減・リサイクル率20%以上を目指としました。

三重大学の橋本先生の指導の下、平成17年5月「衣装ケースによる堆肥化試行」と併せて市職員と市民による生ごみ堆肥による野菜・花だんづくりを始め、18年2月には「鳥羽生ごみリサイクル推進会議」を設置、同4月ごみゼロ社会実現プラン推進モデル事業を申請し、同11月県からの予算2千300万円によって施設着工、平成19年3月に完成し、運用を開始しました。この施設は、廃油を利用した石けんづくりや環境教育の場として環境教室・工房「遊(YOU)」、家庭で不用になつた

むことが重要と考えますし、即解
決の即効薬や近道はない！まずは
「気づき」が大事だと感じました。

「ひなたぼっこ」で年間生
ごみ250kgをゼロに！

生活雑貨の引き取り・販売を行うリユースショップ「もつたないやん」、新聞・雑誌・段ボール・牛乳パック等の収集を行う「紙りサイクルステーション」のほか、多目的利用の事務所が入る棟とごみを分別し保管するスペース棟、そして生ごみを二次加工し保管する「生ごみ堆肥舎」があり、敷地の面積は420m²あります。

ごみ処理施設としては、非常に小規模なですが「目的意識」がはつきりわかる施設であり、参考になるヒントがたくさんある施設でした。

また、私たちがここを視察場所に選んだ理由の一つは、NPO法人が運営しているという点でした。ごみ処理施設で非営利団体が運営している施設は聞いたことがなかったので、非常に興味がありました。

運営している団体は、特定非営利活動法人「NPOとばりサイクルネットワーク」といい、元々の前身は衣装ケースによる生ごみ堆肥化のメンバー主体でシルバー人材センターの方々が主となつており、現在22人のメンバーで活動しているとのことです。

昨年10月には、その活動が認められ、循環型社会形成推進功労団体として環境大臣表彰を受賞した団体です。

ポスター用紙の裏を活用した自作の名刺をくださった鳥羽市環境



△説明する、とばりサイクルネットワーク山西さん(右)と市環境課資源リサイクル係木田さん(中央)



△実物の「ひなたぼっこ」

と増える予定だといいます。当初見込みより大幅に利用者が増えていたため、現在増設工事中でした。が、議会からは「見通しが甘い！」なかつたので、非常に興味がありました。

運営している団体は、特定非営利活動法人「NPOとばりサイクルネットワーク」といい、元々の

前身は衣装ケースによる生ごみ堆肥化のメンバー主体でシルバー人材センターの方々が主となつており、現在22人のメンバーで活動しているとのことです。

昨年10月には、その活動が認められ、循環型社会形成推進功労団体として環境大臣表彰を受賞した団体です。

ポスター用紙の裏を活用した自作の名刺をくださった鳥羽市環境

という装置で、その生ごみを堆肥にするものではなく、NPO法人の手づくりで原価が5000円程度で、橋本先生は1万500円で販売しているそうですが、ここでは普及が目的なので、堆肥づくり講習会に2000円払って受講された方に「ひなたぼっこ」と床材とテキストを差し上げているそう。現在399世帯に配布されていて、当面の目標は500ケースですが、増設後はもう少し増えても大丈夫だとのことでした。

現在の生ごみ資源化量は、399世帯×250kg=9万9750kgを多いと感じますか、少ないと感じますか。もし、資源化されなければすべて焼却処理になります。しかも、堆肥となり野菜や花に循環型だと思います。

さて、表題に記しました「ひなたぼっこ」年間生ごみ250kgを0に！ってなんだと思いますか？

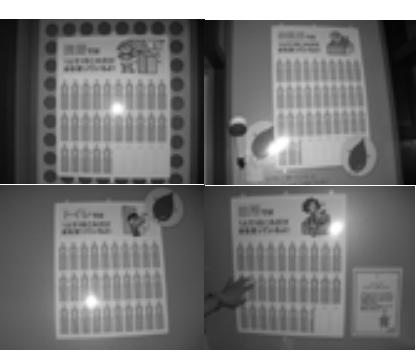
鳥羽市の推計では一世帯当たり



△施設内の収集場所はごみの種類ごとに仕切られている

ちなみに、山西理事長の説明によると、市からは人件費として400万円程度、リサイクル材の販売等で100万円程度の売り上げになるそうで、市にとつては非常にローコストになるとの説明でした。

紙類のリサイクルでは、持ち込んだ人に市の商店会発行のポイントカード「てんすうカード」にポイント加算で還元しているそうで、1kg当たり2円の還元になり、



△1人あたりの1日の水使用量。(写真はエコセンにて)

【答え】

1人あたり1日に2リットルのペットボトルで115本（トイレ30本、お風呂32・5本、洗濯25本、台所27・5本）、230リットルの水を使っています。この水をスーパーで1リットル130円で購入したとする

と、2万9900円もの金額になります。今回、処理場の特効薬やごみゼロの近道はないものかと視察に赴きましたが、教育もごみゼロも同様に、即効く特効薬や近道はなく、どちらも「気づく」ことから始めて、行政だけでは解決しないといふことを広く市民に理解してもらわない限り、見通しは明るくないし、行政としても今すぐにでも取り組みを始めないと、処分場が満杯になってしまってからでは費用が莫大にかかることになるのではないかと心配になりました。

あると考えます。